

26年12月分 構造用集成材工場の荷動き・価格先行き動向調査1

1. 調査実施期間 平成26年 11月20日～ 26年12月10日

2. 調査実施方法

全国の構造用集成材工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
12月分の回答企業数は7社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) ラミナ荷動き動向 Weight. D. I.

品目		26/12月	27年1月	2月
入荷動向	国産材	6.3	△ 6.3	△ 12.5
	外材	△ 30.0	△ 50.0	△ 40.0
在庫動向	国産材	△ 7.1	△ 7.1	△ 7.1
	外材	△ 20.0	0.0	△ 20.0

・国産材ラミナの入荷は12月の増加から、27年1月、2月は減少に、外材は3ヵ月連続して減少。

・国産材ラミナの在庫は3ヵ月連続して減少、外材は12月の減少が、27年1月は横ばい、2月は減少に。

(2) ラミナ購入価格動向 Weight. D. I.

品目	26/12月	27年1月	2月
国産材	0.0	0.0	7.1
欧州材	25.0	50.0	37.5
その他	100.0	100.0	100.0

・国産材ラミナ購入価格は総じて保合、欧州材は強保合、その他材は強含みで推移。

モニターからのコメント

(ラミナ荷動き)

・スギは、前月同様入荷状況は良い、カラマツは岩手県産ラミナは前月同様入荷が芳しくない。北海道産ラミナは潤沢に入荷。スギは入荷量を調整中。カラマツは、未だ発注量に対し90%の入荷であるため在庫は横ばいで推移。

・入荷は、契約数を絞っているため減少する。生産調整を継続する予定のため在庫の変化は徐々にとなる。

・急速な円安の動きから外材の先高感が高まり、年明け以降、一時ヒノキなど国産材への需要が高まる可能性がある。ただし、実需が伴っていないので一過性との見方もある。外材先高感から今のうちに仕入をしようとする動きが見られ、外材の在庫は一時的に減少するが、その後増加に転ずると考える。

(ラミナ価格動向)

・スギは、前月と同価格に落ち着いている。カラマツは、前月同様の価格、ただし、岩手県産ラミナは今後、強含んでくると見込む。

・4Qステイが落としどころと考えられる。

・外材の値上げにより国産材へのシフトが行われれば、ラミナの価格が上昇すると思われる。しかし、急激な値上げは、その後の供給不安を考えると好ましくない、慎重な対応が望まれる。

26年12月分 構造用集成材工場の荷動き・価格先行き動向調査2

(3) 構造用集成材荷動き動向 Weight. D. I.

品目		26/12月	27年1月	2月
生産動向	国産材	7.1	7.1	7.1
	WW集成管柱	0.0	12.5	0.0
	RW集成平角	12.5	37.5	12.5
	米マツ集成平角	16.7	16.7	0.0
	WW集成平角	—	—	—
出荷動向	国産材	16.7	16.7	16.7
	WW集成管柱	0.0	0.0	△ 25.0
	RW集成平角	25.0	12.5	0.0
	米マツ集成平角	25.0	△ 25.0	△ 50.0
	WW集成平角	—	—	—

・集成材の生産は、一部品目の横ばいを除いてどの品目も3ヵ月連続して増加。

・国産材集成材の出荷は3ヵ月連続して増加、WW集成管柱は12月、27年1月の横ばいから2月は減少、RW集成平角は12月、27年1月の増加の後、2月は横ばいに、米マツ集成平角は12月の増加が27年1月、2月は減少に。

(4) 構造用集成材出荷価格動向 Weight. D. I.

品目		26/12月	27年1月	2月
スギ集成管柱	0.0	0.0	0.0	
ヒノキ集成柱	12.5	12.5	0.0	
ヒノキ集成土台	0.0	0.0	0.0	
カラマツ集成土台	0.0	0.0	0.0	
WW集成管柱	50.0	50.0	37.5	
RW集成平角	50.0	50.0	37.5	
米マツ集成平角	25.0	25.0	0.0	
WW集成平角	0.0	0.0	0.0	
米ヒバ土台角	0.0	0.0	0.0	
カラマツ集成平角	0.0	0.0	0.0	

・スギ集成管柱、ヒノキ集成土台及びカラマツ集成土台は3ヵ月連続して横ばい、ヒノキ集成柱は12月、27年1月はやや強保合、2月は横ばい。

・WW集成管柱及びRW集成平角は、3ヵ月連続してやや強含みで推移、米マツ集成平角は12月、27年1月のやや強保合が2月には横ばいに、WW集成平角、米ヒバ土台角及びカラマツ集成平角は3ヵ月連続して横ばいで推移、

モニターからのコメント

(構造用集成材荷動き)

・11月以降は多少の秋需と、輸入材に見られた為替による仮需が、一部国産材でも発生したため、予想以上に荷動きは活発。ただし、キャパシティを上回る需要までには至らず、受注量に応じた生産体制は変わらず。また、非住宅物件や災害公営住宅の一部始動など、荷動きは悪くない。12月も同様の動きと見込むが、住宅需要は減少傾向にあり、仮需での手当てを考慮すると1月以降の販売は苦戦を強いられそう。

・円安の影響で1月頃までは荷動きは良いのではないかと。

・国産材構造用集成材は少し需要が高まっているが、依然として販売はそれほど伸びておらず、生産は横ばい状態。米ヒバ集成平角は先高感もあるので一時的に生産が増える可能性はあるが年明けからは徐々に減少も考えられる。米ヒバは12月頃より関東中心に本州プレカット加工予定増加、1月までは増加の見通し、2月以降があらゆる要因含め見えづらい。

(構造用集成材出荷価格動向)

・スギは、需給バランスが相変わらず整っていないが、為替円安の影響により輸入材価格が底入れから反転。伴って下げ止まり感が出てきたが、上がる環境でもなく、当面は横ばいの予想。カラマツは、為替円安の影響で、競争樹種が反転しており、徐々に価格差が圧縮している。ただし、国産材の割高感変わらず、値上げできる局面にない。需要の見通しも悪く、横ばいの見込み。

・管柱は1,900円/本、平角は60,000円/m³くらいで落ち着くのではないかと。

・ヒノキ集成柱、集成土台は、引合い、実需は多少戻っているものの、顕著なほどではない。為替状況による。外材の市場単価によっては上昇の潮目を迎える。